

半個室を利用し、日中長時間透析を 開始した経過の報告

濱永 千晴

はじめに

慢性維持透析療法を受けている患者総数は2016年で32万人を超え、年々増加している。当院でも患者数が増加し、ベッド数が不足するという問題が起きている。当院ではオーバーナイト透析を行っており、専用の半個室がある。そこで私たちは、ベッド数の不足を解消することを目的とし、半個室を活用して日中での長時間透析を導入した。その経過を報告する。



対象

	年齢(歳)	透析歴(年)	DM有無	心不全有無
男性A	66	6	無	無
男性B	68	27	無	無
男性C	51	5	有	無
男性D	70	3	無	無

半個室を利用した長時間透析の条件

- ・1回6時間、週3回の血液透析
- ・体重増加が4～6%以内
- ・透析中の循環動態が安定している

方法

当院の透析患者に半個室を使った長時間透析を開始するお知らせを掲示し、希望者を募る紙を配布した。長時間透析開始後、聞き取りを行い、通常透析との変化の有無を調べた。

結果

- ・半個室での長時間透析を4名が希望し、ベッド移動を行った。
- ・長時間は苦痛だというイメージがあり、希望する患者が少なかった。
- ・個室になることが不安、寂しいといった理由で女性患者は希望者がいなかった。

聞き取り調査①

個室を利用した長時間透析開始1ヵ月後

長時間透析を開始してまだ1ヵ月のため、また元々6時間透析をしていたため体調の変化は分からない。

半個室という環境が快適で、6時間が長く感じない。

倦怠感が消失し、食事も摂れるようになった。

聞き取り調査②

個室を利用した長時間透析開始5ヵ月後

2、3年続いていた透析後の吐き気、嘔吐、ふらつきがなくなった。

血管痛があるときはきつい。

血液検査の結果が良くなった。(リン、カリウム、クレアチニン値など)

透析日は一日潰れるが、家にいても寝たり、テレビを見て過ごすため嫌ではない、一日仕事と違って割り切っている。

個室長時間透析開始後の変化

	体調		快適さ	
	1ヵ月後	5ヵ月後	1ヵ月後	5ヵ月後
男性A	○	○	○	○
男性B	△	○	○	○
男性C	△	△	○	○
男性D	△	—	○	—

○: 良い(良くなった) △: 変化なし
×: 悪い(悪くなった) —: 不在

透析中の様子



透析中は睡眠、テレビを見る、昼食を摂るなどをして過ごされている。中には長時間のためマイ枕やアイマスクを持参されている方もいる。

結語

半個室での長時間透析は、快適な透析時間を過ごすことができるとの意見から今後のベッド数確保に繋がっていけると思われる。女性患者は半個室での透析を体験せずに拒否されてしまったため、見学や体験が必要だったと考える。多くの患者を受け入れる体制を整えていくと共にこの環境を生かし、長時間透析に対するハードルを下げるきっかけとしていきたい。

倫理的配慮

対象者に同意を得て、当院の倫理審査を受けている。